

運 營 規 程

社会福祉法人 水俣福祉会
水 俣 保 育 園

水俣保育園運営規程

(施設の目的及び運営方針)

第1条 当園は、保育を必要とする乳児及び幼児を日々受け入れ、適正な保育の提供を行うことにより、児童の健やかな成長を図ることを目的とする。

2 当園は、児童福祉法(昭和22年法律第164号)及び子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)、水俣市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例(平成26年度水俣市条例第17号)その他関係法令を遵守して運営するものとする。

(理念)

豊かな創造性を持った子どもたちの健全育成を指名として社会に貢献し、常に期待される施設を目指します。

(保育方針)

保育所は、乳幼児が生涯にわたり人間形成の基盤を養う、きわめて重要な時期に、その生活の大半を過ごす場所です。

保育所における保育の基本は、家庭や地域社会との連携を密にして、家庭保育の補完を行い、子どもたちが健康で安定した生活の出来る環境を整えることと思っております。

当保育所では、子どもたちが自己を十分に発揮しながら活動することにより、心身がともに健全に発達し、人の心の痛みがわかる子どもの育成に努めております。

(保育目標)

1. 心を弾ませ、身体をいっぱい使い、元気に園庭で遊ぼう。
2. 自分で物を作り出し、カー杯自分を表現できる子どもになろう。
3. 感じたことや想像したことを、音楽や造形で自由に表現しよう。生活や遊びの中で楽しく言葉を使って十分に表現しよう。
4. 身の回りのことに目を向け、相手の意見を十分に聞いて、よく考え、自分の意見を主張しよう。
5. 食べることに興味を持とう。
6. 年齢を問わず、お友達との関わりを大切にしよう。

7. 身の回りの動植物に、愛情をもって接しよう。
8. 地域の人や身近な人との交流を大切にし、感謝の気持ちを持とう。
9. 芸術や文化に触れる機会を作り、美しさを感じる心を育てよう。

(事業所の名称等)

第2条 当園の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- (1) 名称 社会福祉法人 水俣福祉会
 水 俣 保 育 園
- (2) 所在地 熊本県水俣市栄町2丁目1番21号
- (3) 電 話 0966-63-4725 番 0966-62-3118 番
 FAX 0966-63-1515 番

(提供する特定教育・保育の内容)

第3条 当園は、保育所保育指針（平成20年3月28日厚生労働省告示141号）に基づき、子どもの心身の状況に応じて、教育・保育その他便宜の提供を行うものとする。

2 当園は、前項の提供に加え以下に掲げる事業を実施する。

- (1) 延長保育事業
- (2) 障害児保育事業
- (2) 一時預かり事業

(職員の職種、員数及び職務の内容)

第4条 当園が保育を提供するにあたり配置する職員の職種、員数及び職務内容は、別表1のとおりとする。ただし、職員の配置については、児童福祉施設最低基準の施設の設備及び運営の基準に関する条例（厚生省令第63号及び児発第305号）に定める配置基準を下回らない人数とする。なお、員数は入所人数により変動することがある。

配置する職員の職種、人数及び職務内容について記載。（別表1参照）

(特定教育・保育の提供を行う日並びに行わない日)

第5条 当園の保育を提供する日は、月曜日から土曜日までとする。ただし、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、12月29日か

ら31日及び翌年1月1日から1月3日を除く。その他、特に園長が認めた日。

- 2 平成31年度に限り、4月30日及び5月2日に、「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律の施行に伴う大型連休における一時的な保育需要」に対応するために、一時保育事業を希望者が有れば実施することとする。尚、利用料に関しては別途定める。

(特定教育・保育の提供を行う時間)

第6条 当園の保育を提供する時間は、次のとおりとする。

(1) 開所時間

当園が定める開所時間は、次のとおりとする。

月～金 7時00分から18時00分までとする。

土曜 7時00分から18時00分までとする。

(2) 保育標準時間認定に係る保育時間（最大11時間）

当園が定める次の時間帯の範囲内で、保育標準時間認定を受けた支給認定保護者が保育を必要とする時間とする。

月～金 7時00分から19時00分までとする。

土曜 7時00分から18時00分までとする。

なお、18時00分から19時00分までの範囲内で、延長保育を行う。

(3) 保育短時間認定に係る保育時間（最大8時間）

当園が定める次の時間帯の範囲内で、保育短時間認定を受けた支給認定保護者が保育・教育を必要とする時間とする。

月～土 8時00分から16時00分までとする。

なお、16時00分から19時00分の範囲内で、延長保育を行う。

(利用料その他の費用等)

第7条 支給認定保護者は、支給認定保護者の居住する市町村長が定める利用料を、その居住する市町村へ支払うものとする。

- 2 当園の特定教育・保育において提供する便宜の要する費用については、支給認定保護者より実費の負担はないものとする。

- 3 延長保育事業に係る利用料は、現状では、1時間あたり¥0円とする。

- 4 保育短時間認定に係る児童の延長保育に関しては、1回につき、一人当たり
¥300円を徴収するものとする。
- 5 一時預かり事業に係る利用料は、1日あたり¥1,800円、半日あたり
¥900円とする。
- 6 本年度に限り実施する「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日
とする法律の施行に伴う大型連休における一時的な保育需要」に対応するための
一時保育事業に係る利用料は、利用児童一人につき、1日当たり¥2,000円、
半日の場合 ¥1,000円とする。但し、弁当持参とする。

(利用定員)

第8条 利用定員は、次のとおりとする。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
2号定員	—	—	—	19人	13人	18人
3号定員	13人	13人	14人	—	—	—

※状況により、一部変動する事もある。

(利用の開始及び終了に関する事項等)

第9条 当園は、保育時間の認定を受けた子どもの保護者から利用の申込みを受けた
ときは、正当な理由なくして提供拒否は行わず、これに応じるものとする。

2 子ども・子育て支援法第19条第1項第2号の子ども及び第19条第1項第3号
の子どもについては、同法第42条の規定により、市町村が行った利用調整により
当園の利用が決定されたときは、これに応じるものとする。

3 当園は、保育の提供の開始に際しては、あらかじめ、利用申込者に対し、運営規
程の概要、職員の勤務体制、利用者負担その他利用申込者の保育の選択に必要とな
る重要事項を記した文書にて説明を行い、同意を得るものとする。

4 支給認定を受けた子どもが、子ども・子育て支援法第19条の支給要件に該当し
なくなったときは保育の提供を終了するものとする。

〈心身の状況の把握〉

第10条 当園は、保育の提供にあたり、子どもの心身の状況、その置かれている環
境、他の教育・保育施設等の利用状況等の把握に努めるものとする。

〈（小学校等との連携）〉

第11条 当園は、保育の提供の終了に際し、小学校、特定教育・保育施設その他関係機関との密接な連携に努めるものとする。

〈（記録の整備）〉

第12条 当園は、職員、設備及び会計に関する諸記録を整備するものとする。

2 当園は、子どもの保育に関する記録（保育の提供日、内容その他必要な事項の記録）を整備し、その完結の日から5年間保存するものとする。

〈（保育に関する評価等）〉

第13条 当園は、自らその提供する保育の質の評価を行い、常にその改善を図るものとする。

2 当園は、定期的に施設を利用する保護者その他の施設の関係者（職員は除く。）による評価又は外部の者による評価を受けて、それらの結果を公表し、常にその改善を図るよう努めるものとする。

〈（相談及び援助）〉

第14条 当園は、常に子どもの心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、子ども又はその保護者に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うものとする。

（緊急時等における対応方法）

第15条 当園は、保育の提供を行っているときに、利用子どもに病状の急変、その他緊急事態が生じたときは、速やかに利用子どもの家族等に連絡するとともに、嘱託医又は利用子どもの主治医に連絡する等、必要な措置を講じるものとする。

（非常災害対策）

第16条 当園は、非常災害に関する具体的な計画を立て、防火管理者を定め、非常災害時の関係機関への通報及び連携体制を整備し、それらを定期的に職員に周知するとともに、毎月1回以上避難及び消火その他必要な訓練を実施する。

2 緊急災害（地震及び津波）等の災害発生時には、直ちに災害対策本部を立ち上げ、的確な行動を実践する。園児の安全を第一とし、速やかに安全な避難場所へ移動し、

人員の確認及び傷病者の有無を確認する。地震等など緊急を要する場合、避難が時間的余裕及び移送体制が確保出来ないと判断される場合は、隣接地の三階建て(鉄骨造り)へ移動することとする。(海拔10mを確保)

〈(子どもを平等に取り扱う原則)〉

第17条 当園は、子どもの国籍、信条、社会的身分又は保育の提供に要する費用を負担するか否かによって、差別的取扱いをしない。

(虐待の防止のための措置に関する事項)

第18条 当園は、子どもの人権の擁護・虐待の防止のため次の措置を講じる。

- (1) 人権の擁護、虐待の防止等に関する必要な体制の整備
- (2) 職員による利用子どもに対する児童福祉法第33条の10各号に掲げる行為その他子どもの心身に有害な影響を与える行為の禁止
- (3) 虐待の防止、人権に関する啓発のための職員に対する研修の実施
- (4) その他虐待防止のために必要な措置

2 当園は、保育の提供中に、当園の職員又は養育者(保護者等利用子どもを現に養育する者)による虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合は、速やかに、児童虐待の防止等に関する法律の規定に従い、児童相談所等適切な機関に通告する。

〈(秘密の保持)〉

第19条 当園の職員及び管理者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た子ども又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

2 当園は、職員であった者が正当な理由がなく、その業務上知り得た子ども又はその家族の秘密を漏らすことがないよう必要な措置を講じる。

3 当園は、小学校、他の教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者その他の機関に対して、子どもに関する情報を提供する際には、あらかじめ文書により当該子どもの保護者の同意を得ておくものとする。

< (苦情解決) >

第20条 当園は、提供した保育に関する子ども又は保護者その他の子どもの家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じるものとする。

- 2 当園は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録する。
- 3 当園は、その行った援助に関し、市町村から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

< (地域との連携等) >

第21条 当園は、園の運営にあたり、地域の住民や機関等との連携及び協力を行う等、地域との交流に努めるものとする。

< (安全対策と事故防止) >

第22条 当園は、安全かつ適切に、質の高い保育を提供するために、事故防止・事故対応マニュアルを策定し、事故を防止するための体制を整備する。

- 2 事故発生防止のための委員会の設置及び職員に対する研修を実施する。
- 3 当園は、アレルギー対応マニュアルを策定し、それに基づき適切な対応に努める。
- 4 当園は、事故の状況及び事故に際して採った処置について記録するとともに、事故発生の原因を解明し、振り返りを行い、再発防止のための対策を講じる。
- 5 事故については、必要に応じて保護者に周知するとともに、死亡事故、治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故（意識不明の事故を含む）については、市町村の所管課にも報告する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

この規程は、平成29年4月1日から改定施行する。

この規程は、平成31年4月1日から改定施行する。

別表 1 (第 4 条関係)

職種	勤務形態	配置人数	職務内容
園長	常勤専従	1名	職員及び業務の管理、職員の指導監督等
主任保育士	常勤専従	1名	保育士の統括、地域子育て支援等
保育士	常勤専従	常勤 10名 非常勤 3名	保育の提供、保護者への連絡等
看護師	常勤専従	1名	
調理師等	常勤専従	3名	給食の提供、事務管理